

脳卒中入院患者の病型別にみた患者特性
—平成 23 年患者調査から—

研究分担者 川越 雅弘 国立社会保障・人口問題研究所 第 1 室長

概 要：

脳卒中の再発予防に向けた保健指導(退院指導を含む)の方法論を検討するに当たり、まずは、脳卒中入院患者の患者特性の、全国ベースでの実態を把握しておく必要がある。そこで、厚生労働省の患者調査をもとに、病型別にみた脳卒中入院患者の患者特性(性・年齢階級)の実態を分析した。その結果、

- 1) 調査日における脳卒中入院患者数は 159.6 千人で、総入院患者の 11.9%を占めていた。
- 2) 脳卒中入院患者の病型別構成割合をみると、「脳梗塞」65.6%、「脳出血」27.0%、「くも膜下出血」7.4%と、脳梗塞患者が全体の約 7 割を占めていた。
- 3) 女性の占める割合を病型別にみると、「脳梗塞」57.5%、「脳出血」52.2%、「くも膜下出血」72.9%と、くも膜下出血で女性の割合が高かった。
- 4) 75 歳以上が占める割合を病型別にみると、「脳梗塞」76.8%、「脳出血」55.0%、「くも膜下出血」45.8%と、脳梗塞入院患者の約 8 割を後期高齢者が占めていた。
- 5) 男性の年齢分布を病型別にみると、「脳梗塞」「脳出血」では 70～79 歳、「くも膜下出血」では 60～69 歳にピークがあったのに対し、女性では、「脳梗塞」「脳出血」では 85 歳以上、「くも膜下出血」では 70～79 歳にピークがあった。いずれの病型においても、女性の年齢が男性に比べ相対的に高かった。

などがわかった。

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、2025 年の年齢階級別人口は、2010 年に比べ、15～64 歳人口で 13.3%減少、65～74 歳人口も 3.3%減少する一方で、75～84 歳以上人口は 39.1%、85 歳以上人口は 92.5%増加すると見込まれている。したがって、より一層、脳卒中入院患者の高齢化が今後進むことになる(特に、女性)。

介護給付費実態調査によると、85 歳以上の約半数は介護保険サービスを利用している。退院時の医療機関と地域ケア関係者間の連携を強化するとともに(円滑な退院支援の実現)退院後の継続的な支援の在り方を、地域の医療関係者だけでなく、ケア関係者も巻き込みながら、お互いの役割分担の明確化と連携の強化を図っていく必要があると考える。

A. 研究目的

脳卒中の再発予防に向けた保健指導(退院指導を含む)の方法論を検討するに当たり、まずは、脳卒中入院患者の患者特性の、全国ベースでの実態を把握しておく必要がある。そこで、厚生労働省の既存調査(患者調査)をもとに、病型別にみた脳卒中入院患者の患者特性(性・年齢階級)の実態を分析した。

B. 方法

厚生労働省の平成23年患者調査(平成23年10月調査)の公表データをもとに、病型(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)別にみた入院患者の性別・年齢階級別患者数及び構成割合を分析した。

C. 結果

1. 病型別にみた脳卒中入院患者数及び構成割合

調査日における入院患者総数は1,341.0千人で、うち、脳卒中患者は159.6千人(入院患者の11.9%)であった。これを病型別にみると、「脳梗塞」104.7千人(入院患者の7.8%)、「脳出血」43.1千人(3.2%)、「くも膜下出血」0.9千人(0.9%)であった。また、脳卒中患者に占める割合は、「脳梗塞」65.6%、「脳出血」27.0%、「くも膜下出血」7.4%であった。

2. 病型別にみた性別入院患者数及び構成割合

脳卒中入院患者の性別患者数をみると、「男性」68.3千人(42.8%)、「女性」91.3千人(57.2%)であった。

ここで、女性の占める割合を病型別にみると、「脳梗塞」57.5%、「脳出血」52.2%、「くも膜下出血」72.9%と、くも膜下出血で女性の割合が相対的に高かった。

3. 病型別にみた年齢階級別入院患者数及び構成割合

脳卒中入院患者の年齢階級別入院患者数を病型別にみた。

まず、脳梗塞(104.7千人)をみると、「85歳以上」が43.5千人(41.5%)と最も多く、次いで「70~79歳」25.9千人(24.7%)、「80~84歳」21.2千人(20.2%)の順であった。

次に、脳出血(43.1千人)をみると、「70~79歳」が12.0千人(27.8%)と最も多く、次いで「85歳以上」9.3千人(21.6%)、「60~69歳」8.4千人(19.5%)の順であった。

次に、くも膜下出血(11.8千人)をみると、「70~79歳」が3.5千人(29.7%)と最も多く、次いで「60~69歳」2.6千人(22.0%)、「85歳以上」1.8千人(15.3%)の順であった(図1)。

4. 病型別性別にみた年齢階級別入院患者数及び構成割合

脳卒中入院患者の性別年齢階級別入院患者数を病型別にみた。

まず、脳梗塞をみると、男性では「70~79歳」34.8%、「85歳以上」22.7%の順であったのに対し、女性では「85歳以上」55.6%、「80~84歳」20.1%の順であった。

次に、脳出血をみると、男性では「70~79歳」31.6%、「60~69歳」26.7%の順であったのに対し、女性では「85歳以上」32.4%、「70~79歳」25.3%の順であった。

次に、くも膜下出血をみると、男性では「60~69歳」34.4%、「70~79歳」25.0%の順であったのに対し、女性では「70~79歳」32.6%、「60~69歳」「85歳以上」18.6%の順であった(図2)。

図 1.病型別にみた入院患者の年齢分布

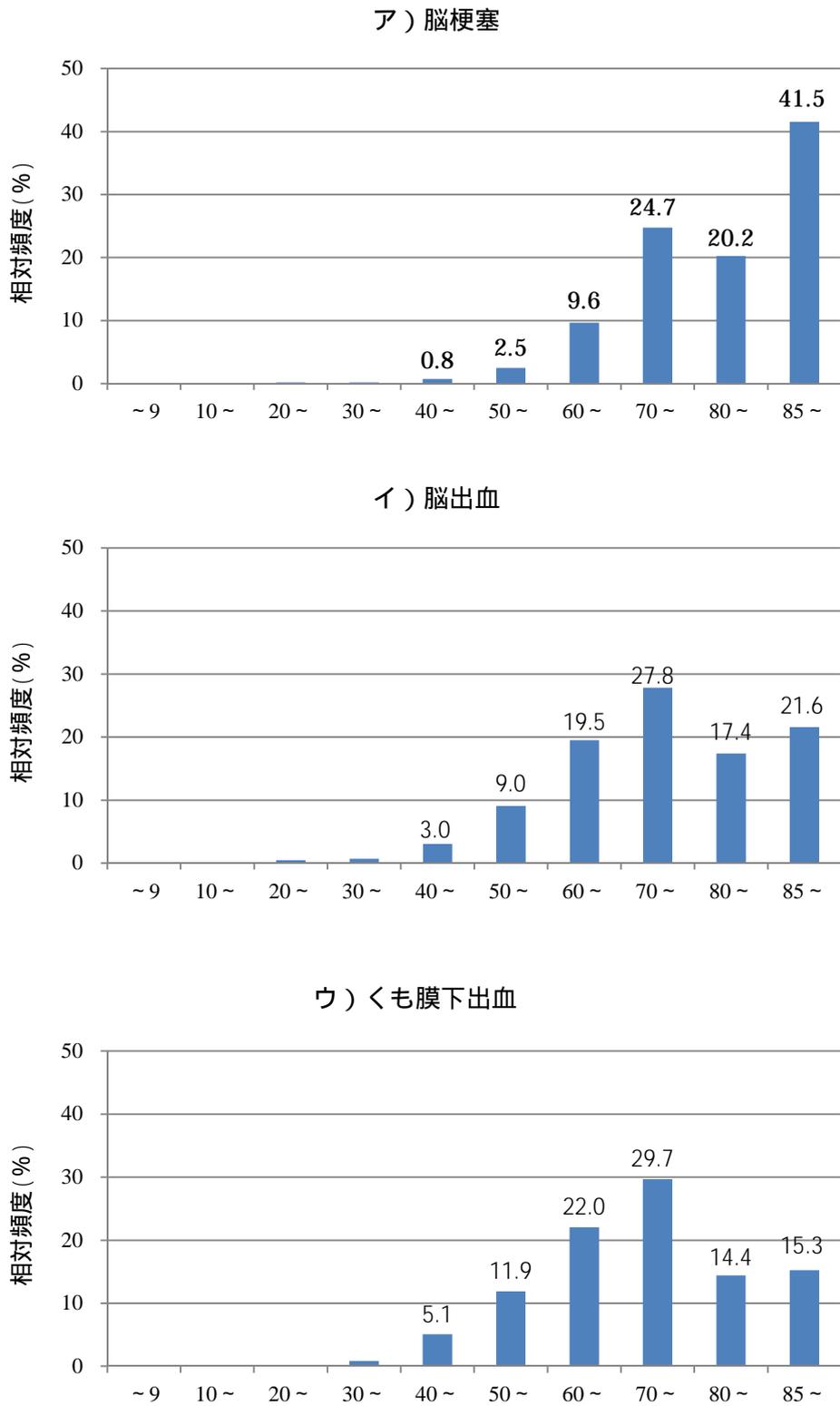
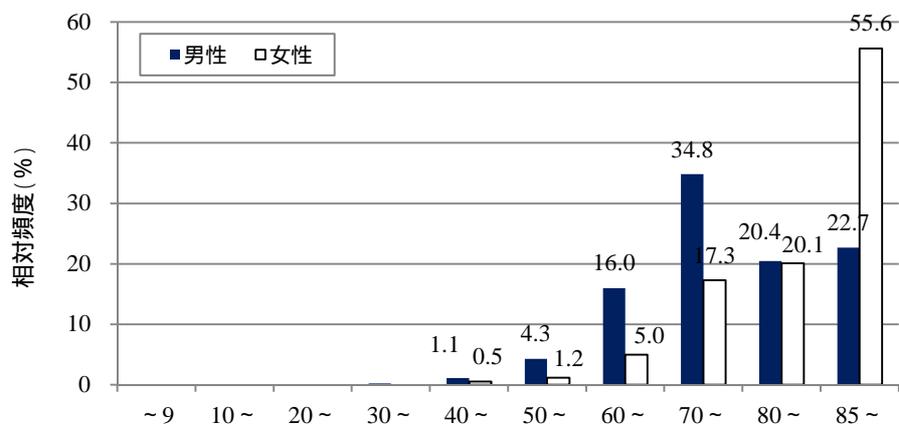
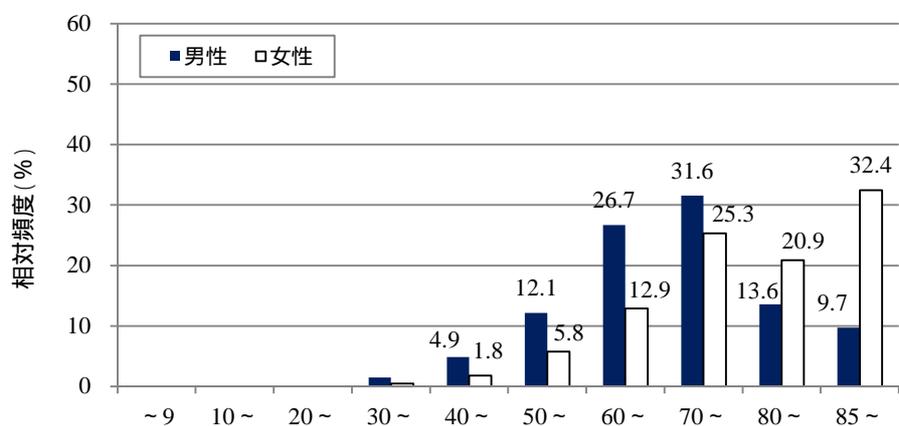


図 2.病型別性別にみた入院患者の年齢分布

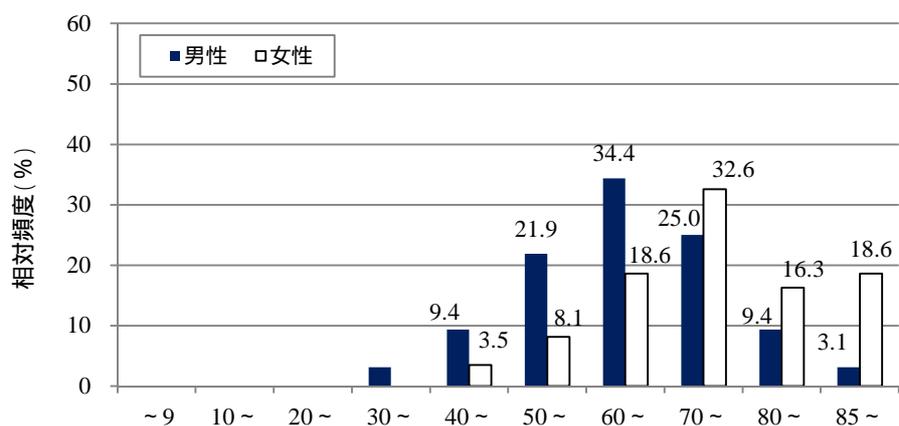
ア) 脳梗塞



イ) 脳出血



ウ) くも膜下出血



D. 考察および E. 結論

本分析により、

- 1) 脳卒中入院患者の病型別構成割合をみると、「脳梗塞」65.6%、「脳出血」27.0%、「くも膜下出血」7.4%と、脳梗塞患者が全体の約 7 割を占めていた。
- 2) 女性の占める割合を病型別にみると、「脳梗塞」57.5%、「脳出血」52.2%、「くも膜下出血」72.9%と、くも膜下出血で女性の割合が高かった。
- 3) 75 歳以上が占める割合を病型別にみると、「脳梗塞」76.8%、「脳出血」55.0%、「くも膜下出血」45.8%と、脳梗塞入院患者の約 8 割を後期高齢者が占めていた。
- 4) 男性の年齢分布を病型別にみると、「脳梗塞」「脳出血」では 70～79 歳、「くも膜下出血」では 60～69 歳にピークがあったのに対し、女性では、「脳梗塞」「脳出血」では 85 歳以上、「くも膜下出血」では 70～79 歳にピークがあった。いずれの病型においても、女性の年齢が相対的に高かった。

などがわかった。

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、2025 年の年齢階級別人口は、2010 年に比べ、15～64 歳人口で 13.3%減少、65～74 歳人口も 3.3%減少する一方で、75～84 歳以上人口は 39.1%、85 歳以上人口は 92.5%増加すると見込まれている。したがって、より一層、脳卒中入院患者の高齢化が今後すすむことになる（特に、女性）。

介護給付費実態調査によると、85 歳以上の約半数は介護保険サービスを利用している。退院時の医療機関と地域ケア関係者間の連携を強化するとともに（円滑な退院支援の実現）退院後の継続的な支援の在り方を、地域の医療関係者だけでなく、ケア関係者も巻き込みながら、お互いの役割分担の明確化と連携の強化を図っていく必要があると考える。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的所有権の出願・登録状況

なし

（参考文献）

1. 国立社会保障・人口問題研究所(2012):日本の市区町村別将来推計人口(平成24年1月推計)
2. 厚生労働省(2012):平成23年患者調査
3. 厚生労働省(2012):介護給付費実態調査月報